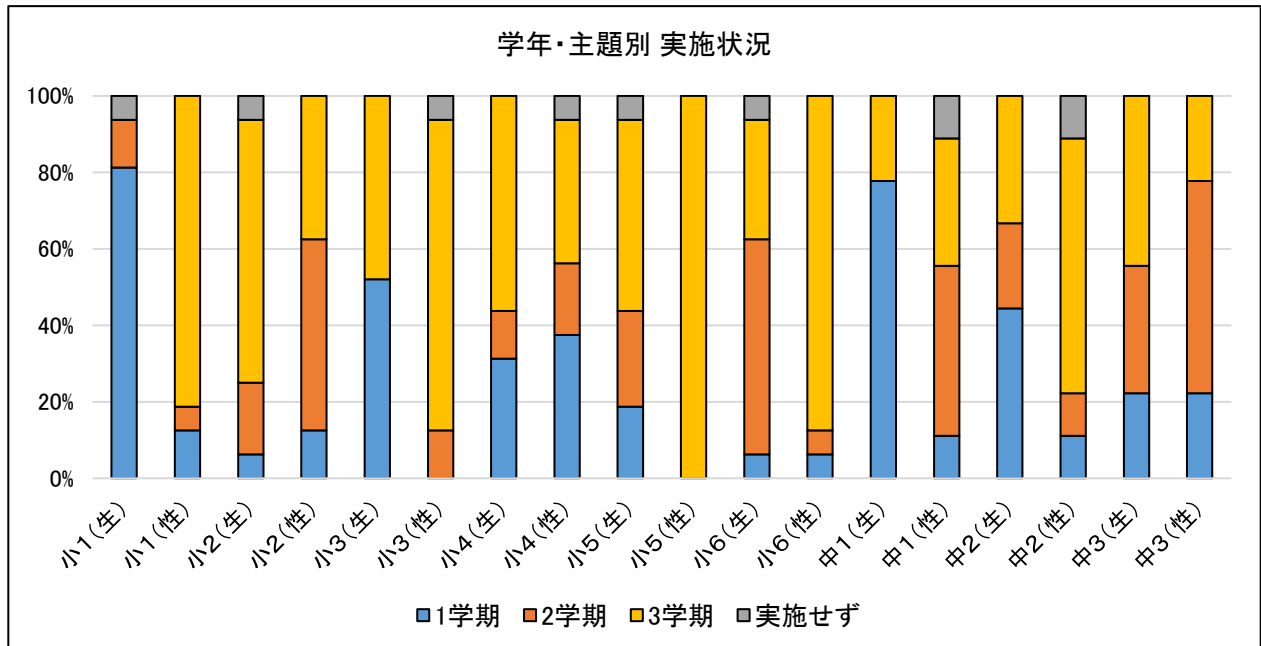


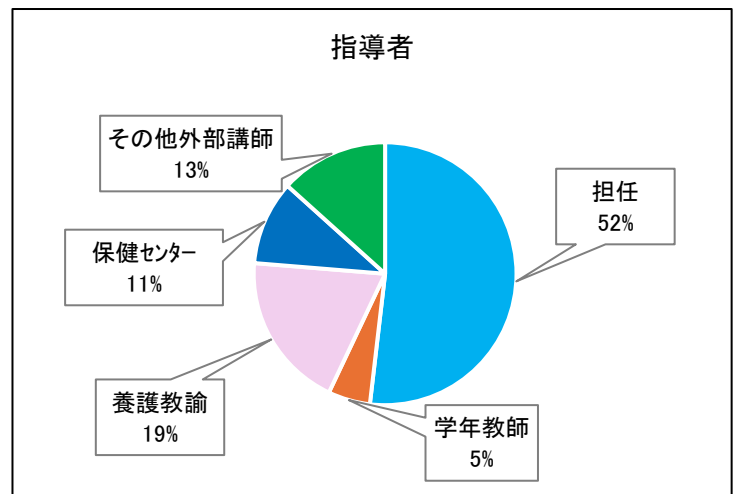
令和7年度「生と性のカリキュラム」実施状況報告

令和8年7月 小牧市母子保健推進協議会

1 「生と性のカリキュラム」実施状況について



- 2時間完全実施している学校は、小学校16校中15校、中学校9校中8校であった（6年度は小11校、中9校）。3学期に実施されていることが多かった。
- 特別支援学級に単独で実施した学校は、小学校6校、中学校0校であった（6年度は小4校、中1校）。
- 保健センター保健師・助産師を講師に招いた授業（小2、小5、中3）や、セルフディフェンス講座（小1、中1）、情報モラル授業など、専門家と連携して授業を行い、効果を上げている。事前の打ち合わせを十分行うことで、より効果が期待できる。
- 主な指導者は担任であるが、養護教諭とのTT、外部講師との連携等、主題に応じて工夫されている。
- 幼保での取組や高等学校での取組とつながっていることは、小牧市のよさと言える。



2 各学校の取組報告

・成果と課題・児童生徒の様子について

(生) 共に生きる学習 (性) いのちの学習 △課題

小1 (生) 「知らない人にはついていかない」

※セルフディフェンス講座 (小牧警察署による学習)

- ・ 不審者から身を守る方法が分かり、実施後に市からの不審者情報があると児童も授業の内容を思い出していた。
- ・ 小学1年には難しい面もあったが、「危なかったら大きな声を出す」「逃げる」など自分にできる行動を通して身を守ろうとする意識が高まった。
- ・ 子どもが自分の将来について考えるよい機会になった。
- ・ とにかく大声で「警察を呼んで」と言うことと、逃げるのが大切だと伝わったと思う。
- ・ セルフディフェンス講座として、自分の身を守るために必要なことなどを講義していただいた。実際に代表児童が演じることで自分事として考える機会となった。
- ・ 小学生になり、児童だけの登下校に合わせて実施していただきよかった。

小1 (性) 「どこがちがうの おとこのこ おんなのこ」

- ・ プライベートゾーンというワードを知らない児童が半数いた。性器を清潔に保つ方法や、なぜ大切なのか、異性の性器の違いなど興味深く学習することができた。
- ・ プライベートゾーンについては、園でも習ったことがあるという児童もあり、より理解が深まった様子であった。
- ・ 「性器」「プライベートゾーン」「命のもと」など初めて知ることばかりでよい学習となった。「体をもっと大事にしたい」という児童の振り返りがあり、よい学びになった。
- ・ 水泳授業の前に担任が実施した。プライベートゾーンは自分のものも他人のものも大切に、他人のプライベートゾーンを触ったり、自分のプライベートゾーンを見せたり不潔にしたりしてはいけないと実感させることができた。
- ・ 身体測定時の保健教育で養護教諭が実施した。児童へプライベートゾーンの役割や大切さについて伝えることができた。「精子」「卵子」というワードに1年生から触れておくと、4年生の教科保健で学ぶ際に自然に受け入れられると思った。
- ・ 本校では1・2年生は男女一緒に着替えていたが、6月の学習(性)の際に見直し、水泳の授業が終わった後も男女別で着替えている。児童の意識を低学年の頃から高めていくのは大切だと思った。
- ・ 「おしえてくもくん」の動画を使った。保育園で習って知っていた子もいた。

小2 (生) 「わたしの大切ないのち」

△ 性被害の防止やプライベートゾーンを守ることについて、実際に被害を受けた児童がいる場合を考えて話を進める必要性を感じた。

- ・ 紙芝居がまだできておらず、改訂前の指導案で実施することになりそうである。

小2 (性) 「おへそのひみつ」

※保健センター助産師との連携

- ・ 保健センターの方がわかりやすく教えてくださり、自分の命の大切さを感じるあたたかい授業でありよかった。
- ・ 「自分はこのように生まれてきたのだ」と知り、「生まれる」ということの素晴らしさ、命の大切

さを再確認できたようであった。保護者にとっても我が子への想いが深まるよい機会となった。

- ・ 助産師に来ていただき、公開日に保護者も交えて実施した。8割の保護者の参加があり、児童にとって、命の大切さを知ったり、自分を好きになったりするよい機会となった。
- ・ 担任が実施した「おへそのひみつ」はおへそがなぜあるか初めて知った児童も多かった。保健センター助産師を講師として実施した命の授業は参観日に実施した。人形を使ったり、実際の心臓の音を聞いたりし、心に残る授業となった。
- ・ 保健センターの方と助産師の方に来て頂き、人がどのようにして生まれるのか教えて頂いた。「生まれてきただけで120点」という言葉が児童の心に残っており、自分の命や周りの友達を大切にしようとする姿勢にもつながった。
- ・ 自分の命の始まりやお腹の中でどのように大きくなっていったかを知り、自分もお母さんも頑張ったから産まれてくることができたことを子どもたちは感じていた。今回の授業内容を踏まえて、「自分が好き、大切にしたい」と振り返りに書く子が多かったのがよかった。

小3(生)「メディアとのつきあい方を考えよう」

- ・ 授業を聞き、メディア機器の適切な使い方について、これまでの生活を見直し、自ら改善点を見つけていくことができていた。授業内容を日常生活に積極的に活かそうという姿勢が見られた。
- ・ 「メディアの使い方」では、利用方法を見直そうと思えた子が多くいた。
- ・ テレビやゲーム、SNSを使用している時間が、思いの外多いことを実感していた。(一日のトータルを週・月・年間で表した)
- ・ 指導案や掲示資料などもあったので、活用しやすかった。授業参観で実施したので、保護者にもねらいが伝わり、よい機会となった。

小3(性)「未来にいのちをつなげるために」

- ・ それぞれが自分の命と向き合い、命を大切にするためにどうしていくとよいかを考えた。友だちの意見を聞いて、考えを変える児童も多かった。相田みつをさんの詩は、誰もが真剣な顔で聞いていた。
- ・ 沢山の命がつながって今の自分たちの命があるのだという、命の連続性を子どもたちは感じていた。ダイヤモンドランキングについては、9項目を学級の実態に合わせて変えていけるのがよいと思った。
- ・ 養護教諭が指導した。絵本「いのちのまつり」の読み語りが児童に印象強く残った様子。学校公開日に実施し、児童のグループで考えるだけでなく、保護者にも考えてもらい、家庭で話し合ってもらえたのがよかった。
- ・ いのちを大切にするために自分たちにできることをクラス全体で考え、その中で自分が特に大切にしたいことを3つ選んで書かせた。

小4(生)「自分やまわりの人を大切に」

- ・ 「人の良さに気づく」という課題はほとんどの児童が達成することができていたように感じられた。「自他の気持ちを大切にするためには」という問いかけには理解度や発言内容にやや個人差が見られた。なぜ自他の気持ちを大切にしなければいけないのか説得力のある説明や、具体的な例を出し、自他の気持ちを大切にしている行動とはどのようなものか考える活動を取り入れてもよいと思った。
- ・ まわりの人からほめられることで自己肯定感を高められた子が多くいた。まわりの人への感謝の気持ちをもてた子も多くいた。

- ・ 二学期に入り、月経がくる児童もいたので、二学期に性の指導や、成長には個人差があることについて指導ができて、とても有意義だと思う。
- ・ 児童らが自分事として取り組みやすいテーマで積極的に授業へ参加している様子が見られた。

小4（性）「かわっていく わたしたち」

- ・ 成長には個人差があることを伝えられたと思う。体の変化が大きい時期に実施できてよかった。
- ・ 養護教諭からは月経の仕組みや正しい処理の仕方について教わった。男子は自分の体に起こる変化について詳しく学ぶことができた。
- ・ 体育科の保健体育と合わせて実施した。養護教諭が授業に入り、教材を使用して視覚的にもより理解が深まった。
- ・ 保健での内容と重なる部分があり、やりやすかった。児童はそろそろ変化が起こるだろうと心構えができたと思われる。
- ・ 取り組みやすい指導案だった。男性なので気をつかった。
- ・ 養護教諭には性のことを質問しやすく、「自分の体のことだけでなく異性の体の変化も詳しく知ることができた」と振り返る児童がいた。
- ・ いいところ見つけは喜んでやった。キーワード以外で書ける子もいた。

△ 体育保健領域の授業とつながりをもたせて実施したが、まだ児童の発育発達が進んでおらず、人ごとのような反応が多かった。児童の発達を見極め指導する必要性を感じた。

小5（生）「男らしさ 女らしさってなに？」

- ・ 男女で身体的な特徴の違いが出てくる年頃なので、みんな興味を持って学習していた。ジェンダー平等について理解を深めることができた。
- ・ 総合の「福祉」、理科の「人のたんじょう」など、他教科と絡めて実施することができた。どちらも動画資料があるとありがたい。
- ・ 総合的な学習で福祉を題材にして指導した。身体の不自由な方の生活や困難さに寄り添って、自分にできることや心がけたいことを考えることができた。視・聴覚障害者や肢体不自由な人、高齢者の暮らしについて学習し、社会には暮らしやすくする工夫があることを学んだ。

小5（性）「すばらしい命～生命のたんじょう～」

※保健センター助産師との連携（R7～）

- ・ 理科の「人のたんじょう」の単元と絡めながら、実施することで、より興味を持って取り組むことができた。
- ・ かけがえのない命を大切にしていきたいと思えた子が多くいた。保健センターの保健師さんにも授業に参加していただき、とても大切な話と子供達を感じ、より内容に深みが増した。
- ・ 保健センターの方に来ていただいて、理科の学習に加え、貴重な話を聞くことができてよかった。

△ 保健センター保健師を講師に迎えて実施した。地域で子どもを育てる、キャリア教育の観点から専門職の方が来られるのであれば、教師主導の授業ではない方がよいと思った。

△ 保健センター保健師に来ていただき、お腹の中の赤ちゃんの話をしていただいた。より専門的な内容を知ることができ良かった。できれば2年おへそのひみつのように保健師中心で授業を進めていただけると指導目当ての齟齬が解消できると感じた。知識だけでなく、命の大切さ、母の思いなども強調して伝えたいところである。

小6（生）「自分で守る心とからだ」

- ・ スマホは便利な反面、自分たちの健康を損なう原因にもなってしまいます。スマホは今の自分たちの生活に切っても切れないものであるので、上手な付き合い方を考えていきたい。
- ・ 親子で生きることについて考えた。「生きる」とは、「食べること」「支え合うこと」「人生を楽しむこと」などさまざまな視点から捉えるよい機会となった。
- ・ SNS 上トラブルが実際に起きている状況で、児童にとって実感のある授業となった。

△ 現代の小学校高学年に合っている内容でよい。ただ、知識として知っている児童がほとんどであったため、実践的な力を身につけていく必要があると感じた。

小6（性）「すてきな中学生になろう～思春期との向き合い方を考えよう～」

- ・ ジェンダーで悩む友人にどのような声を「かけたら、安心できるか」考えた。「好きにしたらいいんじゃない。素敵な考えだよ」という児童の意見が多かった。
- ・ 中学校の養護教諭を通じて実際に中学生の声を教材にしていることで、児童は自分の数ヶ月後の未来のことがイメージしやすかったし、SOS を出せる人を具体的に紹介してもらい、相談してもよいと思える児童がいた。
- ・ 自分の思いを我慢することだけがよいのではなく、相手にしっかり伝えることも大切。伝え方を知れたのがよかった。また、これからは相手の言い分も冷静に聞こうと思えた。
- ・ 中学校に向けて、今後予想される友人関係のトラブルへの対応の仕方などをみんなで考えることができた。
- ・ 改訂中の指導案をもとに、児童に自分事として捉えさせるよう、事前にアンケートを行い、授業に組み入れた。児童は興味をもって見ていた。
- ・ 思春期の心身の変化について理解を深め、互いに尊重する態度がみられた。

△ マイ探究が始まり、他教科でも「重ねる」ことを実施してきた。このカリキュラムも多教科と重ねられないか検討できると良い。

△ 性の表現についてこれから先、私たちも周りの子ども達も柔軟に対応していかななくてはいけないと感じている。しかし、更衣や健診など難しい場面が多いと感じている。

その他、特別支援学級での授業等

- ・ 授業後は思いやりをもって話をする児童の姿がみられた。（特別支援学級）
- ・ 全学年、3 学期の身体測定時に養護教諭が短縮版を実地した。特別支援の児童は、交流学級の指導に参加した。

【中学校】

中1（生）「心を守る からだを守る」

※セルフディフェンス講座（小牧警察署による学習）

△ 自分の心とからだを守ることが大切だということは理解できるが、ねらい（1）の「自分は大切な存在である」ことを実感するまでには至っていないように感じた。

中1（性）「自分らしさって何だろう」

中2（生）「手軽な出会いに潜む危険」

中2（性）「人を好きになる心～つきあうってどういうこと？～」

- ・ 交際中の中学生の気持ちが書かれた資料をもとに考えさせた。関心のある生徒もない生徒も一緒に話し合うことで多様な考え方に触れ、パートナーとの付き合い方について考えさせることができた。

中3（生）「すてきな大人になろう～自立って何だろう～」

- ・ 学年目標にもなっているテーマで、修学旅行計画に際し指導した。生徒は他者の存在を意識しながら学習できた。
- ・ 小牧市民病院の認定看護師の方を講師に迎え「生きる」ということについて話をいただいた。がん教育の一環で行ったが、素晴らしい感想が並んでおり、生徒にとって有意義な時間となった。今後どのような大人になりたいか、支え合うこと、自分を強く持つこと、前に向かって進んでいく意味。命だけはどんなにお金があっても買えないと、当たり前のことだが生徒の心に響いた感想が多く、自分事に捉えることができた。

中3（性）「すてきな大人になろう～性感染症の予防～」

※保健センター保健師との連携

- ・ 多くの生徒が性感染症について理解を深め、その対策や大切にしなければいけないものを実感することができた。
- ・ 命の誕生や性感染症の広がりを実感させることができた。生徒の感想には、自分の行動に責任をもつこと、自分が愛されて生まれてきたことなどたくさんの感想が並んだ。自分たちで考えることができた時間だった。
- ・ 色水の実験は、行わず体育館で集会形式でスライドをみながら学んだ。自分の身体を大切にすること、今後の人生の選択する上での行動を男女ともに真剣に考えるきっかけとなっていた。
- ・ 色水実験により性感染症の広がりを視覚的に理解したことで、一層関心を持って学ぶことができ、自分や相手を大切にする行動についても考えることができていた。
- ・ 事前に打ち合わせがあったおかげで学校側の要望も取り入れて話をして下さったので大変効果的な時間になったと感じている。保健の授業でも扱っていた内容と一部重なってはいたが、それでも保健師という立場で話をしていただいたので再確認する機会にもなったように思う。色水実験での性感染症、命の始まりカードなど今後も継続して行ってほしいと思う。

その他

- ・ 必ずしも指導案どおりにこだわることなく、各校・各学年の実態に合った臨機応変な指導を各主題のねらいに沿って実施できるとよいと思う。
- ・ 全学年(生)いのちの授業を出張授業で全校生徒対象に体育館で外部の講師の方をお招きして行った。